

研究実施のお知らせ

2026年02月05日 ver.1.1

研究課題名

PS 3-4 未治療 EGFR 遺伝子変異陽性進行非小細胞肺癌に対するゲフィチニブとオシメルチニブを比較する多施設共同後ろ向き研究

研究の対象となる方

2016年5月から2024年3月の間に、初回治療としてゲフィチニブまたはオシメルチニブが開始され、その時点で Performance Status (PS) が 3-4 の上皮成長因子受容体 (EGFR) 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌の方です。PS とは患者さんの全身状態の指標です。PS 3-4 とは「限られた身の回りのことしかできず、日中の 50%以上臥床している状態」ないし「身の回りのことは全くできず、終日臥床している状態」を指します。

研究の目的・意義

EGFR 遺伝子変異陽性進行非小細胞肺癌に対しては EGFR-チロシンキナーゼインヒビター (TKI) が有効です。全身状態の悪い患者さんにもその効果が期待されます。オシメルチニブは第3世代の TKI と呼ばれ、比較的新しく開発された薬です。PS 良好な EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌に対して、ゲフィチニブなどの従来の TKI に比べ、高い効果と少ない副作用が報告されています。オシメルチニブは PS の悪い患者さんにも有用である可能性があります。現時点でゲフィチニブよりその有益性が勝るのかどうかはわかりません。

そこで今回、全身状態の特に悪い PS 3-4 の EGFR 遺伝子変異陽性進行非小細胞肺癌に対するゲフィチニブとオシメルチニブの効果や副作用を比較検討するため、本研究を計画しました。

研究の方法

対象となる患者さんのカルテを参照し、ゲフィチニブを投与された方とオシメルチニブを投与された方を分け、その背景・治療効果・副作用などの情報を収集しデータ解析をします。各施設のデータはパスワードロックをかけたエクセルファイルに入力され、情報漏洩が起こらないよう十分注意し、研究事務局 島根県立中央病院に、電子メールで提供されます。

本研究では、患者さんの個人を特定し得る情報（名前・カルテ ID・住所・電話番号など）を取り扱うことはなく、外部に持ち出すことはありません。研究結果は学会や

学術論文等で発表しますが、これら個人情報が含まれることはありません。収集したデータは外部に漏れることがないように、研究者が責任を持って管理します。

研究の期間

2025年11月（研究許可後）～2027年3月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会などで公表します。あなたのお名前など個人を特定できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が共同で行います。

研究代表者：島根大学医学部附属病院呼吸器・化学療法内科 沖本民生

研究事務局：島根県立中央病院 呼吸器科 中島和寿

共同研究機関

施設名	部署	研究責任者
島根大学医学部附属病院	呼吸器・化学療法内科	沖本民生
島根県立中央病院	呼吸器科	中島和寿
浜田医療センター	呼吸器内科	柳川崇
香川大学医学部	血液・免疫・呼吸器内科学	金地伸拓
高知大学医学部医学科	呼吸器・アレルギー内科学講座	山根真由香
KKR 高松病院	呼吸器内科	市川裕久
東広島医療センター	呼吸器内科	西村好史
三原市医師会病院	内科	奥崎健
JA 尾道総合病院	呼吸器内科	濱井宏介
広島大学病院	呼吸器内科	山口覚博
下関市立市民病院	呼吸器外科	井上政昭
県立広島病院	呼吸器内科	石川暢久
広島赤十字・原爆病院	呼吸器科	山崎正弘
松江赤十字病院	呼吸器内科	新井健義
広島市民病院	呼吸器内科	庄田浩康
近森病院	呼吸器内科	石田正之
岩国医療センター	呼吸器内科	久山彰一

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2026年6月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：山口覚博

所属：広島大学病院 呼吸器内科

住所：広島県広島市南区霞1-2-3

電話：082-257-5196 FAX：082-255-7360